議員研修報告書

江津市議会議員　　石橋孝義

1.「地方創生（各論）人口増加策、DX、GX、公共交通」

日　時：2024年1月16日（火）

会　場：リフレンス国際ビル貸会議室2階

講　師：山中俊之氏（株式会社グローバルダイナミックス取締役「2030SDGｓ」認定ファシリテーター、長崎市政策顧問、大阪市特別顧問、芸術文化観光専門職大学教授、神戸情報大学院大学教授）

2.「高齢化の進展、人口減少に対応した交通のまちづくり」

日　時：2024年1月17日（水）　10：00～12：30

会　場：リフレンス国際ビル貸会議室2階

講　師：井原雄人氏（早稲田大学スマート社会技術融合研究機構電動車両研究所研究院客員准教授）

**1. 「地方創生（各論）人口増加策、DX、GX、公共交通」**

* 人口増加策
* 単に人口増加策ではない。社会全体をどのようにＳＤＧｓの視点から変革していくかが問われる。
* 世界の動きを視野に入れる。世界経済の動向に加え、先進事例を取り入れる。
* リーダーとリーダーが行う尖ったことを取り入れる地域風土が重要である。

※　移民を受け入れないとイノベーションが起こらない。

　・　人口増加率全国1位：占冠村

　・　徳島町、上勝町、神山町：「葉っぱビジネス」と「ゼロウェイスト」で人口増。

　・　熊本県菊陽町：台湾TSMSの工場建設で優秀なエンジニアが移住する。

　・　インドハイデラバードの成長：インド工科大学の存在で世界のIT企業が集結。

　・　欧州で公共交通無料の動き：ルクセンブルクでは、2020年3月より、公共交

　　　通を無料にした。ひどくなっていた大気汚染と渋滞を防ぐためである。

都市単位では、エストニアの首都タリンや仏ダンケルクでも実施。

* 自治体ＤＸのあるべき方向
* 単なる電算化、ペーパーレスではない。自治体の在り方を根底から変える施策。
* 社会変革、組織変革の知見とIT地権の融合が必要。
* 外部人材と内部人材の役割分担。
* 札幌市のDＸ児童虐待対応
* 事例を集約して、縦割り防止。
* 情報を一元化して、各家庭の状況が分かるようにした。
* 記録する職員の失念を防止する為の機能を充実させる。
* DXと地産地消再生可能エネルギー
* 岐阜県高山市奥飛騨地区　→　バイオマス及び地熱・水力を活用。

　　　　地産地消の再可能エネルギーへの取り組み進む　→　地域の資産を効率的・効果的

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 に使う手法。

* 棚田の環境保護機能
* 兵庫県香住町小代の棚田　→　日本棚田百選　→　棚田は洪水や土砂崩れ防止機能　→　生物の生態系を守ることにつながる。
* コミュニティのさらなる劣化
* 現代日本社会はコミュニティの助け合いが脆弱と言われてきた。

↓

ソーシャルディスタンスによりさらに劣化する可能性。

　　　　　　　　↓

引きこもり、孤独死、DVなどの門田尾がより深刻化、ボーダーラインの人々の状況悪化

ソーシャルディスタンス時代のコミュニティ（市民参加、協働）や福祉と医療の在り方を検討すべき。

* 都市集住時代の終焉
* 大都市集住のリスクが広く認識される。

　　　　　　　　↓

密・集住でない地域の魅力が再確認、もっとも単に自然があるというだけでは魅力が中途半端。

自然と芸術が両立した新たな芸術田園都市構想を打ち出す。

　　　※　議会での質問に向けて

* 予算も条例も議会で決まる。議員の尽力で変わることは大きい。

**2.「高齢化の進展、人口減少に対応した交通のまちづくり」**

* 地域公共交通はまちづくりの手段
* 地方都市と地域公共交通の現状
* 人口減少と拡散
* 公共交通空白地域の拡大
* 地域公共交通の果たすべき役割
* 地域公共交通に求められる役割と価値　→　利用している人だけでなく、何かしらの理

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　由で利用できない人も対象。

移動手段としての価値だけでなく、移動手　　　　段があることによって得られる価値。

* 高校生のバス通学支援（中津川市）　→　高校生の30％がバス通学した結果、事業者

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　の利益の半分は通学定期券。

* 送迎される人は移動には困っていない　→　移動の問題が家庭の問題に隠されている。
* 商店と連携による賑わい創出（松本市）　→運行側が費用負担をしないインセンティブ

による利用促進

* 地域公共交通は誰が維持するのか。（地域公共交通活性化再生案）

　　　　　　　　↓

国、行政、交通事業者に地域公共交通を維持する責任はない。

利用者も含めた関係者が連携して取り組むことが必要。

* コミュニティバスの収支率　→　（採算が取れない）民間路線バスの代替である限り、

収支率が高くなることはない。

* 市民ワークショップ（30人）移動に対する価値観を共有する。

　　　　　　　　↓

理想のコミュニティを想像（妄想）し、改善が必要な移動の課題を共有する。

* 運行協議会・住民説明会（100人）　→　住民自らが決めることで、「やることの主体

性」と「やらないことの責任」を持つことが

大切。

* 住民バスの成功との相乗効果　→　手段としての価値だけでなく、地域活性化や交流促

進の価値が重要。

* まちづくりの問題と移動の確保「一般論・価値観」

　　　　　　　　↓

移動を確保することがまちづくりの様々な問題の解決につながる。

以上

**感　想**

今回の受講は、先進地の取り組みも紹介しながらでよくわかった。

多くの内容が参考になり、有効な内容で良かった。

終わり